



■葉いもち



■葉いもち (ずりこみ)



■白葉枯病



■もみ枯細菌病

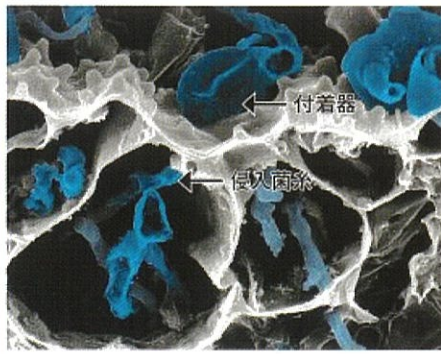


その効き目、歴然。

オリゼメート粒剤は、
いもち病・白葉枯病・もみ枯細菌病防除に威力を発揮。
ユニークな作用性でイネの病害抵抗性を誘導し、
いもち病と各種細菌性病害をシャットアウトします。

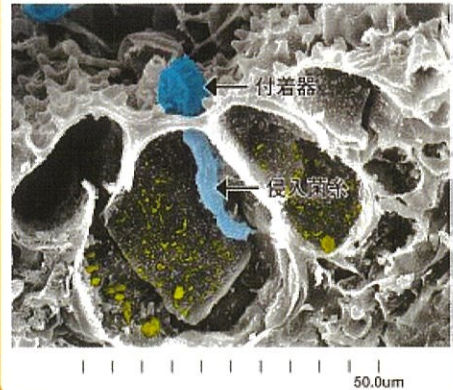
オリゼメートの処理による
いもち病菌の伸展阻害

オリゼメート無処理区



■付着器から侵入菌糸が伸展し、
細胞内に蔓延している。

オリゼメート処理区



■侵入菌糸は侵入初期に伸展を阻害されている。
また、細胞が壊死し、細胞内容物が崩壊することにより、
顆粒が形成されている。

■石川県農業短大 古賀博則教授撮影



ホクコー オリゼメート粒剤

農林水産省登録 第13244号

ホクコー

農林水産省登録 第13244号



オリゼメート粒剤

抵抗性誘導型殺菌剤

●有効成分含量：プロベナゾール8.0%

1. 植物の病害抵抗性を誘導して高い効果を現す、ユニークな作用性の殺菌剤です。
2. 稲いもち病・白葉枯病・もみ枯細菌病・穂枯れに高い効果を発揮します。
3. きゅうり・レタス・キャベツ・はくさい・ブロッコリー・ねぎ等の細菌性病害に有効です。
4. 有効成分は根から速やかに吸収され、体内へ浸透移行します。
5. 効果の持続性に優れ、強い効果が長く続きます。
6. 各種薬剤耐性いもち病菌に対しても有効です。

■適用病害および使用方法

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数		
稲	いもち病	3kg/10a	移植時	1回	側条施用	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)		
	白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ (ごま葉枯病菌)	3~4kg/10a	葉いもちには初発の10日前~初発時 穂いもちには出穂3~4週間前 収穫14日前まで	2回以内	散布			
			移植活着後及び出穂3~4週間前 収穫14日前まで 出穂3~4週間前 収穫14日前まで					
稲(箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5L)1箱当り 20~30g	移植3日前~移植前日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	1回		
きゅうり	斑点細菌病	6~7.5kg/10a (5g/株)	定植時		植穴土壌混和			
レタス 非結球レタス	腐敗病 斑点細菌病	6~9kg/10a			土壌混和			
キャベツ	黒腐病				全面土壌混和 又は 作条土壌混和			
ひろしまな はくさい	軟腐病				全面土壌混和			
ピーマン とうがらし類	斑点病 うどんこ病	5~10g/株			定植時		植穴土壌混和	
ブロッコリー	黒腐病	6~9kg/10a	定植時		全面土壌混和			
ねぎ	軟腐病	6kg/10a	土寄せ時 但し、収穫30日前まで		2回以内		株元散布	2回以内
わけぎ			生育期 但し、収穫35日前まで		1回			全面土壌混和
あさつき		6~9kg/10a	土寄せ時 但し、収穫30日前まで					
カリフラワー			定植時					

2018年1月末日現在

■オリゼメート粒剤の上手な使い方 —いもち病を中心に—

●体系防除

オリゼメート粒剤 + **いもち用散布剤** (共同防除 個人防除)

●広域防除

市、町、村又は地域毎に一定の散布期間(葉いもち初発の7~10日前)にオリゼメート粒剤を全面散布する。オリゼメート粒剤は、効果の持続期間が長いので、従来のいもち剤よりかなり早い時期(葉いもち初発前)に散布すれば葉いもちから穂いもちまで高い効果を発揮し、同時に白葉枯病・もみ枯細菌病も防除できます。さらに、いもち用散布剤を出穂期~穂揃期に散布する体系防除が有効です。

水管理は適切に

本剤は温水状態(温水深3~5cm)で撒きむらのないように均一に散布し、散布後少なくとも4~5日間はそのまま温水状態をたもち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意し、また散布後7日間は、落水、かけ流しはしないで下さい。

- 使用前にはラベルをよく読んで下さい。●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。●使用後の空袋は圃場や用水路などに放置せず、適切に処理して下さい。●防除日誌を記帳しましょう。